

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
医学系キャリア支援のための交流会＜特別回＞
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：医学系研究科・医学部、そして、社会において、
①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2019年10月1日（火） 第一部：17:00～17:45、第二部：17:45～18:25
3. 場所：東京大学医学図書館3階 333会議室（第一部）、310会議室（第二部）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）
※ 他機関からの参加可。事前申込不要。先着100名着席可。

5. プログラム：

司会 細谷紀子・本田郁子

【第一部】

17:00 開会／演者紹介

17:02 講演

「挑戦を続けるということ：as a woman in medicine and a woman in science」

Brigham and Women's Hospital/Harvard Medical School,

Renal Division, Instructor of Medicine 村上 尚加 先生

17:37 質疑応答・全体討論

17:43 中締め挨拶

（佐藤伸一 男女共同参画委員会委員長）

【第二部】

17:45～18:25 自由歓談・情報交換会

6. 企画・運営：

東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）

医学系キャリア支援のための交流会＜特別回＞ 実行委員会

幹事：細谷紀子・本田郁子

委員：飯塚陽子・庄田宏文・菅谷佑樹・田村純人・野村幸世・春名めぐみ・宮寄美幾

M4：糸数昌史・高橋優輔・中島ひばり M3：岩田千尋・関彩花・田頭祥之助

M2：今村洋介・笠原千晶・鴻野芽依・吉富祐太郎

M1：鐘ヶ江真理子・中村幸大・和田都花 C2：神野登喜子・中桐悠一郎

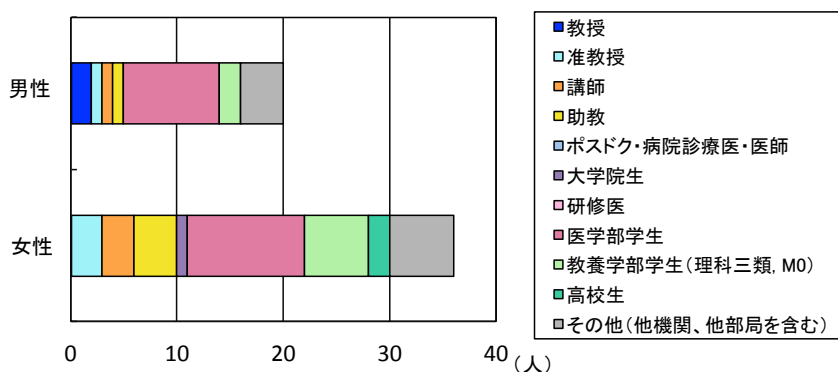
II. 開催報告

1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

参加者内訳

職名(特任、客員を含む)	男性	女性
教授	2	0
准教授	1	3
講師	1	3
助教	1	4
ポスドク・病院診療医・医師	0	0
大学院生	0	1
研修医	0	0
医学部学生	9	11
教養学部学生(理科三類など)	2	6
高校生	0	2
その他(他機関、他部局を含む)	4	6
計	20	36

(人)



【ご参加いただいた高校生のご所属（カッコ内は人数）】

豊島岡女子高等学校(1)、開智日本橋学園高校(1)

2. 当日配布資料

資料1 プログラム

資料2 アンケート用紙

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月の男女共同参画週間に開催されている。今回は Brigham and Women's Hospital/Harvard Medical School の Renal Division において Instructor of Medicine としてご活躍中の村上尚加先生の一時帰国に合わせ、臨時に「特別回」として開催された。村上先生は、本学在学中に PhD-MD コースの二期生として本学医学系研究科の清水孝雄名誉教授の生化学教室に在籍した経歴があり、平成22年に本学医学部をご卒業されてからは、虎の門病院での2年間の内科初期臨床研修を経て、平成24年からは米国に渡り Physician Scientist としてのキャリアを歩みつつある。

講演のタイトルは「挑戦をつづけるということ : as a woman in medicine and a woman in science」であった。初めに講演の目標として、「伝えたい3つのこと」を設定した。(1)自分のビジョンを見つけるにあたって狭い考え方に囚われず、色々な可能性を模索して欲しい、(2)上手くいかない時にも諦めず、周りに助けを求めながら自分の道を追って欲しい、(3)周りの人との協力を忘れないで欲しい、と述べられた。

次に、村上先生が渡米するまでの道のりをご紹介された。Physician Scientist を目指したきっかけは、医学科4年生の時に受けた横溝岳彦先生の講義であった。横溝先生の導きで生化学教室に通うようになり、未知の実験結果にワクワクする日々であったという。自身のフィールドとして腎臓移植内科を選択した理由については、現在は慢性腎不全に対して腎臓移植が最も予後のよい治療法とされているにも関わらず、移植された腎臓が十年経過すると機能的に劣化してしまう問題を解決したいからであると述べた。腎臓移植内科を志望するにあたり、移植件数が日本の10

倍ある米国での修練が必要と考え、米国での内科研修医（レジデント）としての生活を始めることとした。30 近くの病院に応募したがほとんどの病院に断られ、落ち込むこともあったという。しかし、落ち込んでいたらきりがないと悟り、七転び八起きの精神を身につけて乗り切ったと述べた。失敗した際にメンタルを回復するための方法を持つことが大切だとアドバイスを語った。

村上先生は、ニューヨークのベスイスラエル病院で3年間一般内科のレジデント生活を送られた。そこでの1日の生活、チーム構成、昼食時の症例検討会などについて説明された。夜間診療については、1年のうち4週間が夜勤当番として割り当てられて昼夜逆転の生活を行うシステムであったこと、夜間に日勤の医師にコールが来ることはなく家族の時間を取ることができる点が有難いものであったことを紹介された。

続いて、米国での Gender Equality の現状についても説明された。同じ職位のプライマリケア医でも男性の方が女性よりも16%給料が高いという最近の調査結果を紹介し (Ann Intern Med. 2018;168:721)、医療の現場での男女格差が存在するとした。また、科学技術分野でも、高い職位にはいまだ白人男性の割合が高いという調査結果も紹介した (Nat. Immunol. 2019; 20:1085)。こうした格差を解消するための方策が米国では活発に議論されているそうである。

最後に、PhD-MD コース在学中に出産した自身の経験を踏まえ、結婚・妊娠・出産といったライフイベントがあっても周囲の助けを借りながらキャリア形成のための挑戦を諦めないでほしい、目標に向かってできるだけ具体的なプランを立ててほしいとメッセージを贈った。

質疑応答では、米国で医師として働くことを決めたタイミングやその理由、困難にあっても挑戦し続ける気持ちを保つ方法についてなど、さまざまな質問が寄せられた。村上先生からは、ご自身の在学中から卒後のご経験と、それに基づいたアドバイスなどをいただいた。

第1部の終わりに中締め挨拶として、佐藤伸一男女共同参画委員会委員長より、ご講演いただいた村上先生への謝辞が述べられた。その後、第2部として自由歓談の時間が設けられた。学生から教員まで男女問わず幅広い立場の参加者が次々に村上先生を囲み、歓談に花が咲いた。ライフワークやキャリアについて情報を交換し合う有意義な時間となった。

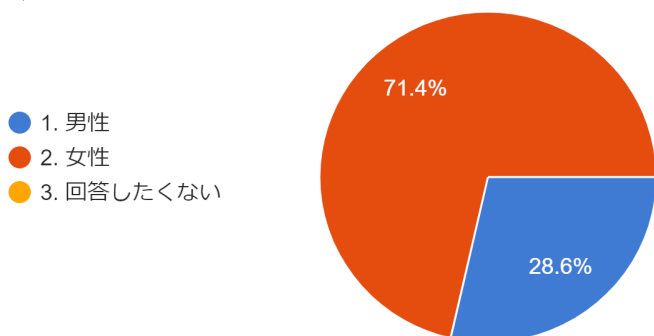
III. 参加者アンケートの集計結果

回収数：35 件（回収率 62.5%）

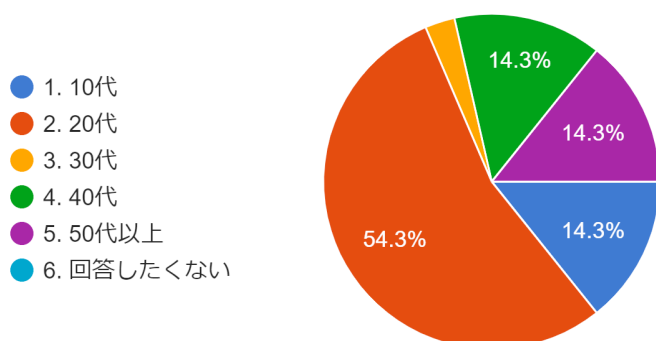
回収方法：退場時アンケート用紙回収（33 件）、Google アンケート（Web）経由回答（2 件）

< 基本情報 >

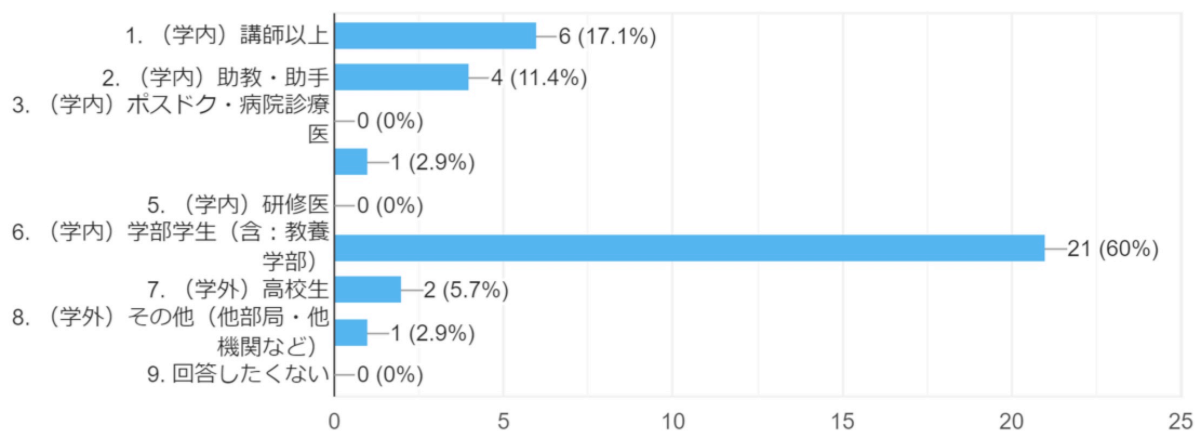
A 1) 性別



A 2) 年齢

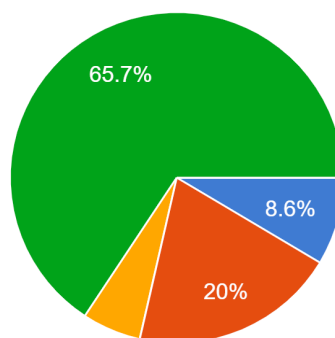


A 3) 職種・職位（特任・客員を含む）

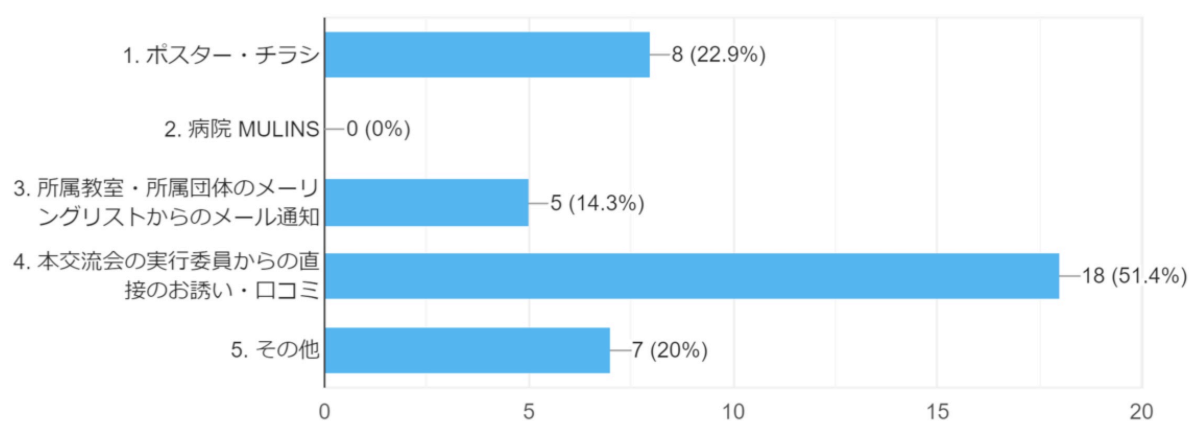


A 4) 所属

- 1. 基礎医学系
- 2. 臨床医学系（病院を含む）
- 3. 社会医学・看護学系・健康総合科学
- 4. その他（学部学生、教養学部学生、高校生、他部局・他機関など）
- 5. 回答したくない



A 5) この会を何でお知りになりましたか（複数回答可）

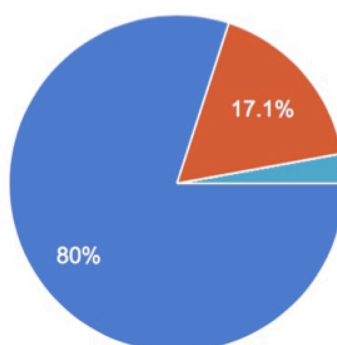


< 今回の企画の感想について >

B 1) 講演 村上尚加先生

「挑戦を続けるということ : as a woman in medicine and a woman in science」について

- 1. 大変良かった
- 2. よかった
- 3. 普通
- 4. やや不満
- 5. 不満
- 6. 無回答



B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想（自由回答）

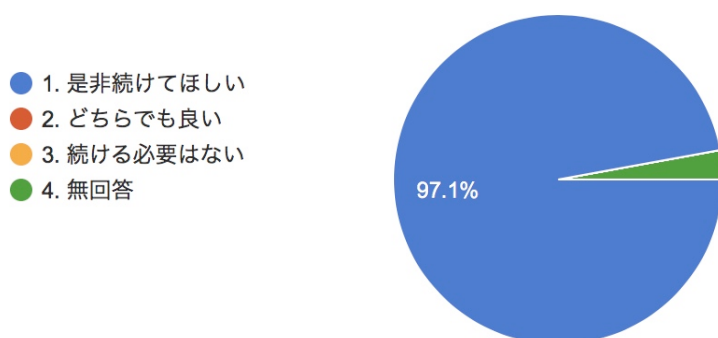
今回の講演について：

- ・ たいへん刺激的なご講演でした。鉄門出身で海外で活躍されている方のお話が聞けてよかったです。
- ・ 大変刺激的で勇気を頂くご講演でした。才気あふれる先生のお姿に感銘を受けました。
- ・ 現在もチャレンジ進行中の若手の先生のお話は、とても臨場感があり刺激的でした。
- ・ 女性として、輝かしいキャリアと家庭を持つことを両立なさっていらして、そのような先生の話の伺うことができ、刺激になりました。
- ・ なかなかない経歴の方のお話を伺えて、大変興味深かったです。
- ・ なかなか聞くことのできない内容が聞けて、よかったです。
- ・ 豊富な経験のある方のアドバイスを聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・ 貴重なお話ありがとうございました！
- ・ 先生の具体的な体験談をお聴きできて、とても参考になりました。素晴らしい講演をありがとうございました。
- ・ アメリカのレジデンシー生活について伺えたのが良かった。
- ・ アメリカの現事情がわかり、とても勉強になりました。
- ・ 学生さんの質問もよかったです。
- ・ 卒後のキャリアの決め方について興味深いお話を伺えて大変ためになりました。
- ・ 進路について深く考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・ 具体的にキャリアパスや生活を紹介していただき、参考になりました。失敗にくじけず挑戦することの大切さを教えていただきました。
- ・ 失敗を乗り越えるためには、明確な目標と強い意志、ポジティブな思考が必要だと学びました。ありがとうございました。
- ・ 明確なビジョンをもつ大切さを学んだ。自分はず、登る山を設定する必要があると思った。
- ・ "It's all about vision." "Be prepared for failures." といった話が非常に心に響いた。若手の先生が登壇されたという話だったが、いつもとは違うメッセージを頂け、とても良かった。
- ・ 若い Dr. の話をきけて良かったです。
- ・ 若齢の先生からの講演、新鮮で大変面白かったです。
- ・ 自分の年齢に近い人からの話を伺えて良かった。
- ・ 比較的年の近い方の話を聞いたことで、15年後の自分の姿と重ねられて興味深かったです。
- ・ 学生に年齢の近い方のお話で、大変良かったと思いました。
- ・ 今までの交流会と話が違い、面白かったです。

もっと聴きたかった点：

- ・ 卒業後、アメリカに移るまでの話をもう少し詳しく具体的に聞きたかったです。
- ・ どのような苦労があって、どう解決したのかが分かれば、もっとよかったです。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

交流会について：

- ・素晴らしい発表でした。今後も多様な演者がいらっしやることを期待します。
- ・このような企画を毎年継続いただき、有難うございます。そろそろ、久しぶりに男性の講師にもご登壇いただきたいところです。
- ・男性講師の方のお話もぜひうかがいたいです。
- ・村上先生もおっしゃっていましたが、established されている方だけでなく近い年代の方の話もきいてみたいと思いました。
- ・WHO や MSF といった国際機関でご活躍されている方のお話も伺ってみたい。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。

本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思えます。

今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会